

学校だより

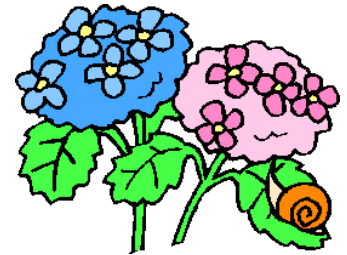
6月号

平成29年 5月31日発行
さいたま市立本太小学校
Tel 048-882-3007
<http://motobuto-e.saitama-city.ed.jp>
e-mail motobuto-e@saitama-city.ed.jp

あじさい 紫陽花の花 ～身近な自然の科学～

校長 井出 了一

桜の花咲く4月、新緑の萌える5月、そして紫陽花色の6月。街なかでも、学校周辺には、その時期ならではの自然の恵みがたくさん感じられます。今年も梅雨の時期が近づき、隣の氷川神社には水色の紫陽花が咲き始めました。紫陽花は、青やピンク・紫など様々な色を楽しめますが、どの色もそれぞれ美しく、どんよりした梅雨空を明るくしてくれます。特に、雨上りにはひととき色鮮やかです。



紫陽花の花言葉は「移り気」、また別名を「七変化」と言うそうです。この花の部分（実は花弁でなくガクなのですが）、どうして色がちがうのでしょうか。

1. 時期による花の色のちがい

咲きはじめのころは、花のなかにも葉緑素があるため緑色をしています。花のきれいなころは、葉緑素がこわれて緑色がうすくなり、同時にアントシアニンという色素がつくられて青色になってきます。花が終わるころには、不要なものが増えてきて赤茶色っぽくなります。

2. 土壌による花の色のちがい

花の色は、①アントシアニンと補助色素、②アルミニウム関係で決まります。①は花の中で合成されますが、②は根から吸収されると色素が青く、無いと赤くなります。このアルミニウム、酸性土壌だと溶けて根から吸収しやすく青系の花になり、中性やアルカリ性だと溶けにくく赤系の花になります。このように、アジサイの色は土壌の酸性度（PH）によって変化します。日本は酸性土壌が多く、そのまま植えると青系の花が多く咲くようです。

先日の朝会で、急速に広がる帰化植物「ナガミヒナゲシ」や、在来種と外来種のタンポポの見分け方をお話したところ、多くの児童から「日本のカントウタンポポを見つけた」と報告がありました。身近なところにも“自然の不思議”がたくさん隠れています。駒場の「青少年宇宙科学館」や、南部浄化センター「みぬま見聞館」（プールのヤゴ救出で大変お世話になりました）では、定期的に観察会や教室を開催しています。ぜひ親子で利用されてはいかがでしょうか。

※ 6月は、「いじめ撲滅 強化月間」

毎年この時期は、新しい人間関係でストレスを抱え込むなど、心身のバランスを崩しやすくなります。心のケアを図り、積極的に声掛けを行います。特にいじめの問題に対しては、子どもたちと一緒に考え、話し合い、問題の早期発見・早期対応を図ります。

「いじめはいけない」誰もがわかっているのに、残念ながら無くなりません。以前に、警察の交通安全課長さんからこんな話を聞きました。「お母さん、毎日、お子さんが家を出る時『いつてらっしゃい。車に気を付けて。横断歩道を渡るのよ！』と言い続けてください。一度言えばわかることでも、親が繰り返すことによって子の心に刷り込まれ、うっかり車道を横切ろうとした時、その一言がよみがえるものです。」

いじめに対しても、周りの大人が意識して言い続けることが、子どもの心の深いところに訴えると信じ、繰り返し伝えていきましょう。

